

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
こころとからだのしくみ I Physical and Emotional Mechanisms I		1年	前期1 / 2	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(介護福祉士養成課程 必修)	授業時間以外に、個人ワーク・グループワークの時間を確保できることが望ましい。
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
石川幸子	福祉棟2階	月・火・木・金（授業時間以外）		授業中に指示します
授業の概要				
基本的な人体の構造と機能を立体的かつ系統的に学び、日常生活動作と関連付けて理解する。そして、運動機能障害と移動に関する障害から生じる心身および日常生活への影響を理解する。また、それらの影響をバイタルサイン（生命の徴候）を通して、客観的に捉える。さらに発表を通して学びを共有し理解を深める。				
授業の目標				
①基本的な人体の構造を簡略に図式化し、機能の概要を説明できるようにする。 ②移動に関する心身および日常生活への影響を説明できるようにする。 ③バイタルサインの意味を明確にし、測定方法および介助方法を習得できるようにする。				
授業の方法				
講義科目であるが、視聴覚教材の使用、個人ワーク・グループワークおよび発表、演習と多様な形式である。人体の構造および移動に関連する障害について、提示された課題を個人ワーク・グループワークにより取り組み発表する。個人ワーク・グループワークの2回目からは、進捗状況を報告してもらい、適宜アドバイスを行う。バイタルサインについては、事前課題をもとに演習を行う。				
学習の成果（学習成果）				
①基本的な人体の構造と機能について知り、日常生活動作と関連付けながら生活支援技術に取り組むことができる。 ②バイタルサインの意味を理解し、測定方法を習得することで測定時の介助が適切に行え、異常の早期発見につなげることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	授業ガイダンス（授業のねらい・評価方法・演習時の注意）、人体の構造と機能を学ぶ必要性、健康の意義、ホメオスタシス			
第2回目	人体の構造と機能① 視聴覚教材「医学一般」により人体の構造と機能を概観する			
第3回目	人体の構造と機能② 脳神経系（中枢神経系）			
第4回目	人体の構造と機能③ 脳神経系（末梢神経系）			
第5回目	人体の構造と機能④ 筋・骨格系、身体の動き等			
第6回目	人体の構造と機能⑤ 個人ワークまたはグループワーク 課題の提示と進め方およびまとめ方			

第7回目	人体の構造と機能⑥ 個人ワークまたはグループワーク 文献を使って個人レポートを作成
第8回目	人体の構造と機能⑦ 個人ワークまたはグループワーク 個別指導・レポートのまとめ
第9回目	人体の構造と機能⑧ 個人ワークまたはグループワーク 発表の方法と進め方 (レポート1 提出：第10回目前日まで)
第10回目	人体の構造と機能⑨ 発表
第11回目	人体の構造と機能⑩ 発表のまとめ、補足説明
第12回目	バイタルサイン① バイタルサインの意義 事前課題提示
第13回目	バイタルサイン② 測定方法 【演習】 (レポート2 提出：演習終了後)
第14回目	移動に関連したところとからだのしくみ WHOについて、移動のしくみ
第15回目	心身機能の低下が移動に及ぼす影響、変化の気づきと対応
事前・事後学習	個人ワークやグループワークの準備やまとめをきちんと行うこと。授業で学んだ知識と自身の身体状況を照らし合わせ、生きた知識としていくこと。
成績評価の方法と基準	
評価の領域	割合 評価の基準
授業参加態度	20% サブテキストを活用し、積極的に取り組んでいる。
レポート	20% 1：個人ワーク・グループワーク S：必要な項目を適切に挙げ、まとめている 2：バイタルサイン S：事前に調べ、演習ができるようにまとめている
調査報告書	
小テスト	
試験	50% 国家試験問題形式を中心に、穴埋めや記述式等の試験を実施する。
発表内容（態度含む）	10% 発表原稿を作成し、発表の練習を行っていることや、発表内容（具体的でわかりやすい）、発表態度等で評価する。
その他	
教科書と参考図書	
①教科書：介護福祉士養成講座 第11巻 「ところとからだのしくみ」 中央法規出版 ②「ぜんぶわかる人体解剖図」 成美堂出版	
履修上の留意点・ルール	
●実務経験（職種：介護福祉士、職歴：通算13年） 自分の日常生活動作と関連付けながら学ぶことで理解に努め、簡略な人体の構造図が描けるようにしてほしい。また、調べる・まとめるという作業を通して自主性の必要性を理解してほしい。クォーター科目の前半であり、週2回の授業となる。	